

大阪府私学教育情報化研究会

平成 15 年度総会

「学校情報化に関連する諸課題とその解決に向けて！」

2003年5月24日(土) 13:00～

大阪信愛女学院メディアセンタ AV ホール

大阪私学教育情報化研究会総会次第 (司会：坂東 永智：聖母被昇天学院中高等学校)

- 会長挨拶 (奥田 三郎：大阪国際大和田中・高等学校校長)
- 会場校校長挨拶 (縄田 紳子：大阪信愛女学院高等学校長)
- 議長選出 ()
- 総会議事：平成 14 年度活動報告 (高田 健三：大阪国際大和田中高等学校)
平成 14 年度会計報告
平成 15 年度事業案
平成 15 年度予算案
新役員の紹介

学校情報化に関連する諸課題とその解決に向けて！

1. 「情報アンケート」の集計結果と分析 (10分)
報告者：川崎 初治 (研究会副会長：飛翔館中学高等学校)
2. ミニ講座：教科「情報」で活用できる学習環境をいかにデザインするのか！ (30分)
講師：市川 隆司 (大阪信愛女学院短期大学人間環境学科)
3. 特別講演：「教育の情報化が、学校にもたらす新しい流れとは！」 (60分)
講師：影戸 誠 (日本福祉大学メディアセンター)
4. パネルディスカッション (90分)
テーマ：「国際化と情報化に対応できる力を育てる！」
パネリスト：特別講師 影戸 誠 (日本福祉大学)
キャラバン実践者 飯田 英佳 (四條畷学園高校)
安全プロジェクト実践者 小池 崇司 (プール学院高校)
ICT プロジェクト実践者 石部 睦夫 (大阪信愛女学院高校)
ファシリテータ：研究会役員 米田 謙三 (羽衣学園高校)

(敬称略)

尚、終了後には恒例の親睦会 (情報交換会) を実施する予定です。是非、ご参加下さい。

大阪私学ネットをよろしく

URL <http://www.osaka-sigaku.net>



平成15年度定期総会を開催にあたり、私立中学校高等学校連合会・私学振興研究所をはじめ「教育情報化研究会」の役員や各校の先生方、応援して頂いている関係者の方々のご支援とご協力に心から感謝いたします。

本研究会も昭和61年に発足以来17年目を迎え、昨年度から新たに教科「情報」や総合的な学習なども取り入れ、また研究会名も「教育工学研究会」から「教育情報化研究会」へと脱皮して参りました。昨年引き継ぎまして「授業公開キャラバン」、「安全プロジェクト」、「教員研修」を中心に活動を進めて参りましたが、新しく「ICTプロジェクト」も本年よりスタートすることになりました。教育の情報化はもちろんのこと、学校の情報化と特色化に向けた取り組みが各校で実践され生徒達の「表現力」や「考える力」が少しでも育成できるようになればと願っています。そして授業方法や教育環境の改善をはじめ、先生方の問題解決の糸口として本研究会が、微力ではありますが、お役に立てればと考えています。

本研究会が情報担当の先生方だけではなく、英語、国語、社会、家庭科など教科を越えた先生方の「情報の取り扱いに関する取り組み」の場となり広くネットワークでつながり、情報の共有化と情報の発信が日常的に行われていくことが大きな願いであります。

多様化する現代社会で、生徒と先生と保護者がコミュニケーションを十分に図り、目標に向かって挑戦する中、悠々と「ゆとり」創りをしていけるような情報化を目指して行きたいものです。

まだまだ本研究会は新しく未熟ではありますが、現在の役員の先生方には、本当に熱心に企画立案しそれを実践をして頂いております。皆様方も「大阪私学ネット」(<http://www.osaka-sigaku.net>)のホームページをご覧頂いているとは存じますが、役員会も毎月1回は行っていますので、気軽にご参加頂ければと思います。

本日はご参加、本当に有り難うございます。



研究会名：大阪府私学教育情報化研究会 記入者名：高田 健三（事務局長）

実施日			会の名称	会場名	参加人員	実施内容の概要
月	日	曜				
4	2	金	役員会	大阪薫英女学院高校	13名	平成14年度の事業計画の確認と総会の準備
	19	水	臨時役員会	大阪国際大和田高校	15名	総会の準備と新しい事務局・会長との顔合わせ
5	1	水	授業公開キャラバン	大阪信愛女学院高校	32名	「情報」の年間指導計画の立て方について
	10	金	安全プロジェクト委員会	プール学院高校	15名	翌日の年次総会と次回キャラバンの準備
	11	土	年次総会	プール学院高校	93名	関西大学・黒上晴夫・韓国 KERIS・ハン教授
	15	水	内田洋行エキスポで発表	ハービス大阪	15名	大阪私学の取り組み（飯田，長尾）
	17	金	雑誌の取材（ジャスト）	ハービス大阪	6名	大阪私学の活動内容と仲間作りについて
	17	金	5月役員会	ハービス大阪	17名	次回キャラバンの準備，安全プロの報告
	17	金	松下視聴覚教育研究財団の 助成金授賞式出席	有楽町芝パークホテル	2名	安全プロジェクトが助成金を受賞（津田）
	26	日	ICTE セミナー-in 岡山	倉敷商工会館	6名	授業公開キャラバンの紹介（長尾）
6	14	金	6月役員会	大阪国際大和田高校	14名	次回キャラバンの準備，総会の反省
	15	土	ICTE セミナー-in 関大	関西大学尚文館（千里山）	12名	情報教員のためのワークショップ（協力）
	21	金	臨時役員会	大阪国際大和田高校	13名	次回キャラバンの準備，インテル講習会
	21	金	安全プロジェクト委員会	大阪国際大和田高校	8名	助成金の利用用途について
	28	金	授業公開キャラバン	清教学園中学校	37名	授業・佐竹教諭，技術家庭科，国語科と連携
7	5	金	安全プロジェクト	ニューヨーク市		安全プロジェクトの交流の下見と打ち合わせ
	9	火	事前の打ち合わせ	アイアーン usa 事務所	2名	辻，米田，が渡米して交渉
	5	金	海外派遣の見送り	安全プロジェクト代表	2名	奥田会長，長尾，見送り（関西国際空港）
	12	金	授業公開キャラバン	清教学園高校	27名	小林教諭，長尾，授業公開，VBB の活用
	20	土	安全プロジェクト	プール学院	31名	薫英，プール，羽衣，帝塚山の生徒で学習
	25	木	キャラバン委員会	内田洋行大阪支社	16名	今後のキャラバンの展開方法について再検討
	29	月	情報施設見学会	大阪学院大学	7名	大学の情報化関連の施設見学，ウェブ活用
8	6	火	インテル研修会準備作業	大阪信愛女学院短大鶴見	8名	翌日からのインテル講習の打ち合わせと準備
	7	水	インテル講習会(1)7-14	大阪信愛女学院短大鶴見	24名	インテル実施の教員対象の社会貢献事業
	21	土	インテル講習会(2)21-28	大阪信愛女学院短大鶴見	24名	私学教員対象は，全国初，1日6時間×6日
	28	土	8月役員会	大阪信愛女学院短大鶴見	10名	インテル講習会の総括 キャラバン
9	6	金	9月役員会	大阪国際滝井高校	12名	冬のインテル講習について
	7	土	安全プロジェクト	羽衣学園高校	27名	生徒中心でソフトの操作学習（画像編集）
	12	木	授業公開キャラバン	羽衣学園高校	26名	プレゼンテーションの学習（津田）
10	11	金	10月役員会	プール学院高校	17名	近畿私学研修大会の準備
	12	土	大阪府高情研の大会	大阪経済大学	7名	公立中心の研究会へ参加 評価について
	18	金	前日の会場準備・役員会	プール学院高校	16名	翌日の役割分担，準備，冊子どめ
	19	土	近畿研修大会	プール学院高校	150名	講演（田中博之先生）・公開授業（藤本・小池）
	28	月	授業公開キャラバン	精華高校	27名	3Dソフトの利用について（村上）
11	4	日	関西セミナー（アイアーン）	万博記念公園ホール	22名	米国アイアーン事務局長の講演（エド博士）
	11	月	授業公開キャラバン	府立柴島高校	26名	坪内先生 4時間目 メールを活用とHP
	16	土	インテルセミナー	大阪 YMCA ホール	8名	インテル講習で作成した優秀作品（教材）の紹介
12	29	金	授業公開キャラバン	羽衣学園高校	32名	英語の授業では，モニタ利，VBB も活用
	14	金	インテル講習会（3） 14.15 21-22. 25-26	大阪国際大学守口学舎	68名	夏の講習回と同じ講習 1日6時間 × 6日
1	26	木	インテル講習親睦会	大阪国際大和田高校	48名	最終日，インテル講習会参加の先生との親睦会
	10	金	役員会	私学会館	10名	次回キャラバンの準備と研究発表大会について
2	21	火	授業公開キャラバン	プール学院中学校	62名	3教室にわかれて紹介（総合的な学習の時間）
	19	水	授業公開キャラバン	四條畷学園高校	26名	地元のお店のポスターを作る（三村）
3	28	金	役員会，翌日の準備会	大阪国際大和田高校	12名	研究発表大会の準備
	1	土	第16回研究発表大会	大阪国際大学守口学舎	87名	岐阜大学付属中学副校長・井上志朗先生
	12	水	安全プロジェクト発表	ハワイ州教育学会	3名	安全プロジェクトの成果を米国にて発表
	14	金	3月役員会	私学会館	18名	次年度の総会の検討
	24	月	キャラバン研修会	私学会館	12名	本年度のキャラバンの反省会

平成 14 年度大阪府私学教育情報化研究会 収支決算書

平成 15 年 5 月 9 日

記入者名 高田 健三

収入 447,101 円

支出 446,892 円

差引 209 円 (次年度繰越金)

収入

科 目	本年度決算額	本年度予算額	差 異	備 考
			-	
1.繰 越 金	101	101	0	
2.補 助 金	447,000	447,000	0	
3.分 担 金	0	0	0	
4.寄 附 金	0	0	0	
合 計	447,101	447,101	0	

支出

科 目	本年度決算額	本年度予算額	差 異	備 考
			-	
1.報 償 費	219,000	200,000	19,000	
2.旅 費	0	5,000	-5,000	
3.消 耗 品 費	10,355	15,000	-4,645	
4.印 刷 製 本 費	0	20,000	-20,000	
5.会 議 費	85,854	70,000	15,854	
6.通 信 運 搬 費	37,310	15,000	22,310	
7.借 上 料	0	0	0	
8.研修研究事業費	34,373	50,000	-15,627	
9.研 修 参 加 費	0	10,000	-10,000	
10.研 究 材 料 費	0	0	0	
11.図 書 ・ 器 具 費	0	0	0	
12.分 担 金	60,000	60,000	0	
13.そ の 他	0	1,938	-1,938	
合 計	446,892	446,938	-46	

平成 15 年度 事業実施案

平成 15 年 5 月 9 日

研究会名：大阪府私学教育情報化研究会 記入者名：高田 健三（事務局長）

実施日			会 の 名 称	会 場 名	参加人員	実 施 内 容 の 概 要
月	日	曜				
4	12 18	土 金	キャラバン委員会 4月役員会	四條畷学園高校 私学会館 306 号室	13名 25名	平成15年度のキャラバン計画について 総会の開催,新役員の紹介,ICTプロジェクト
5	2 6 9 9 13 22 24	金 火 金 " 火 木 土	キャラバン委員会 授業公開キャラバン 5月役員会 松下視聴覚教育研究 財団助成金授与式 大阪IT活用教育推進WG 兵庫県私学教育情報化研究会設立総会 大阪府高等学校情報教育研究会総会 平成15年度総会	私学会館 蘭 大阪国際大和田高校 私学会館 306 号室 東京,芝パークホテル 関西大学 100 周年記念会館 兵庫県私学会館(元町) 大阪信愛女学院メディアセンタ AV ホール	32名 15名 18名 1名 4名 7名 6名	「情報」の年間指導計画の立て方について 情報 A,7 限目,授業者:高田健三 総会の役割分担,ICTプロジェクト,研究集録 ICTプロジェクト代表 米田謙三(羽衣学園) プロジェクトと助成金受け取り 大阪府教育委員会からの協力依頼(中島主事) 大阪私学の活動内容の発表(川崎副会長) キャラバンや安全プロ,ICT プロの報告クレ大阪東 講演:影戸 誠(日本福祉大学メディアセンタ助教授)
6	6 27	金 金 土 土	6月役員会 授業公開キャラバン ICT プロジェクト 安全プロジェクト	私学会館 向陽台高校(吉田) プール学院 帝塚山学院泉ヶ丘		情報 A 5 限 授業者:吉田泰明
7	20 28	金 金 土 日 土	7月役員会 授業公開キャラバン ICT プロジェクト アイアーン世界会議 安全プロジェクト	私学会館 上宮高校(池田) 四條畷学園高校 関西学院大学三田学舎 未定		
8		金 土	インテル教育支援研修会 8月役員会 夏の情報研修会 ICT プロジェクト 管理職のための情報研修会	未定 私学会館 未定 大阪国際大和田 未定		
9		金 金 土	9月役員会 授業公開キャラバン 安全プロジェクト	私学会館 須磨学園高校(宮浦) 大阪薫英女学院		
10		金 金 土 金	10月役員会 授業公開キャラバン 安全プロジェクト 秋の情報研修会	私学会館 京都女子高校(成瀬) 精華高校 未定		
11		金 金 土	11月役員会 授業公開キャラバン 安全プロジェクト 授業公開キャラバン	私学会館 大阪福島女子高校(谷田部) 羽衣学園高校 大阪電通大高校(多田)		
12		金 土 金	ニューヨーク海外生徒招待 12月役員会 安全プロジェクト 役員研修会	安全プロジェクト 私学会館 帝塚山学院泉が丘 同志社香里高校		
1		金 金 土	1月役員会 授業公開キャラバン 安全プロジェクト	私学会館 清教学園高校(山本) 羽衣学園高校		
2		金 土	2月役員会 授業公開キャラバン 安全プロジェクト	私学会館 大阪薫英女学院(津田) 帝塚山学院泉が丘		
3		金 土	ニューヨーク海外生徒派遣 3月役員会 安全プロジェクト 第17回研究発表大会	安全プロジェクト 私学会館 帝塚山学院泉が丘 未定		
4		金	年度末役員会	私学会館		

平成 15 年度大阪府私学教育情報化研究会 収支予算書

平成 15 年 5 月 9 日
記入者名 高田 健三

収 入

科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異	備 考
			-	
1.繰 越 金	2 0 9	1 0 1	- 1 0 8	
2.補 助 金	4 2 5 , 0 0 0	4 4 7 , 0 0 0	- 2 2 , 0 0 0	
3.分 担 金	0	0	0	
4.寄 附 金	0	0	0	
5.利 息	0	2 0	- 2 0	
合 計	4 2 5 , 2 0 9	4 4 7 , 1 2 1	- 2 1 , 9 1 2	

支 出

科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異	備 考
			-	
1.報 償 費	2 0 0 , 0 0 0	2 0 0 , 0 0 0	0	研究会講師謝金・交通費
2.旅 費	5 , 0 0 0	5 , 0 0 0	0	
3.消 耗 品 費	1 5 , 0 0 0	1 5 , 0 0 0	0	
4.印 刷 製 本 費	2 0 , 0 0 0	2 0 , 0 0 0	0	
5.会 議 費	9 0 , 0 0 0	7 0 , 0 0 0	2 0 , 0 0 0	役員会・研究会・シンポジウム運営会議費
6.通 信 運 搬 費	3 0 , 0 0 0	1 5 , 0 0 0	1 5 , 0 0 0	
7.借 上 料	0	0	0	
8.研 修 研 究 事 業 費	5 0 , 0 0 0	5 0 , 0 0 0	0	コンピュータ研修会開催費
9.研 修 参 加 費	1 0 , 0 0 0	1 0 , 0 0 0	0	
10.研 究 材 料 費	0	0	0	
11.函 書 ・ 器 具 費	5 , 0 0 0	0	5 , 0 0 0	
12.分 担 金	0	6 0 , 0 0 0	- 6 0 , 0 0 0	ヒューマンアカデミー夏季研修会中止のため
13.そ の 他	2 0 9	1 , 9 3 8	- 1 , 7 2 9	
合 計	4 2 5 , 2 0 9	4 4 6 , 9 3 8	- 2 1 , 7 2 9	

特別講演 「教育の情報化が、学校にもたらす新しい流れとは！」

講師： 影戸 誠 先生 日本福祉大学メディアセンター助教授

影戸先生のホームページアドレス <http://www.kageto.jp>

（先生の紹介）

1992年よりパソコンとインターネットを駆使した授業を行い、小学校・高校の教員を経て現在に至り、文部科学省関連の委員などを歴任されています。

「本人の中に眠る可能性を見せるパソコン活用」をモットーとして、国内外での交流事業を通じて世界の教育者と連携を取り、インターネットを使った教育の実践を続けておられます。

1999年より名古屋で毎年夏にワールドユースミーティングという交流会を開催してこられました。世界7ヶ国の学校の生徒や教育関係者を招き、国内の先生・生徒と共同学習を行って最終日に発表会を催します。日本の情報教育の草分け的な存在で、今よりも学校に規制がたくさんあった時代から、絶えず情報化と国際化を視野に入れながら生徒と共に感動的な実践を数多く積み重ねてこられました。

学校改革が、全国で進められていますが、「教育情報化」がどのように進むのか、またそれによって授業がどのように変わることになり、指導する教員は授業で何を求められるようになるか、といった事柄について、ご自身の実践をもとにわかりやすいお話をして頂きます。

（著書）

教育エッセイ「ほんもののかず」 JDC 出版 1995

「インターネット実践例集」教育家庭新聞社主編集 1996

「ここまでやるか国際交流」教育家庭新聞社 1997

「コンピュータ教育辞典」旬報社アンダーソン（エジンバラ大学ほか）1998

「翼をもったインターネット」日本文教出版 2000

「国際交流のガイドブックー高校での総合学習ー」日本文教出版 2000

インターネットの教育利用 教育家庭新聞社 2000

「国際交流マニュアルーあたらしいインターネット・あたらしい英語教育」 日本文教出版 2001

「魅せる先生 学校の先生支援」インプレス 2002

第48回読売教育賞を受賞され、
表彰式後高円宮様ご夫妻とお話された影戸先生
（影戸先生のホームページから）



「情報」関連の授業公開キャラバン

四條畷学園高等学校 飯田英佳

1. 活動趣旨

一般に、「情報 = コンピュータ」という図式は、教員の情報教育に対するイメージからなかなかぬぐいきれず、「コンピュータを使うこと = 情報教育」になりがちではないかとの懸念が広がっています。現職教員が「情報」を担当する場合には、やはり今までの知識伝達に重きをおいた授業スタイルから脱却することは容易なことではありません。概念としていくら講義で学習しても実際に生徒に主体的な活動をさせて授業を展開し、他教科の教員、或いは、地域との連携をとりながらの授業をデザインすることは大変なことであろうと思われま

す。そこで、お互いに自分が情報教育であると判断し実践している授業を公開し評価しあうことで、徐々に情報教育の目標を模索していくしか方法はないのではないかと考えました。しかし授業を相互に見せ合う「場」を作ることすら現実には難しい。更に単に授業を見せ合うだけでなく、率直に意見を交換し授業の質を高めるための議論を展開するには、授業者の系統的な授業の流れまで理解する必要がある。そこで、最初に仲間作りをおこなった上で、次いで授業参観に加えて、公開授業をデザインする時点から相互に意見を交換できるシステムをWebを活用する(Virtual Brain-Storming Board)ことで実践し、授業後もその場を活用しながら、お互いが持つ情報教育への概念の共有化をはかることができるのではないかと考えました。そして、公開授業を継続的に実施しface to faceの情報交換の場を提供し、同時にお互いの授業により深く関わられるシステム作りを目指しました。

準備する段階において特に意識したことは、参観にこられる先生方と委員の先生方との間で確実に連携していくムードを作っていきたいということでした。私立学校の教員には、基本的には転勤はありません。ですから私学の教員は、自分の勤務している学校をもとにして、全ての教育のことを判断してしまいがちです。「情報」という今までとは少しフレームワークが異なる教科に取り組んでいこうとする場合には、従来の固定的な教育の枠組みや概念にとらわれていては、その実施目標を見誤る可能性が高いといわざるを得ません。この授業公開キャラバンの企画には、そのような私学教員の立場を理解し、自分の学校を取り囲んでいる高い壁を自ら乗り越えて、外の教育環境に興味関心を示し始めている先生方の連携を築き上げるという極めて重要であり、かつ意義深い活動が含まれていると考えています。

以上のようにヒューマンネットワークを構築して、情報共有をすることの意義を体験的に認識してもらいながら、「情報」関連の授業について語り合う「場」を広く提供しようと考えてこのキャラバンを進めています。

2. 予算(補助金等)

2001年に実施しました第1回～講演会&シンポジウムまでは、(財)コンピュータ教育開発センター(CEC)によるEスクエアプロジェクトの平成13年度地域企画「インターネット教育利用のための地域活動支援」を受けました。また、2002年からの第4回以降は、上月情報教育財団の第11回(平成14年度)情報教育研究助成を受けて運営しています。

3. 活動概要

各回の公開授業・意見交換会の詳細については、おおさか私学ネットの「授業公開キャラバン」のページをご覧ください。

<http://www.osaka-sigaku.net/open/index.html>

次回のキャラバンは6月27日(金)に向陽台高等学校で吉田先生が行ってくれます。単位制高校の情報の取り組みを見せていただきます。

4. メンバー（組織）

研究会のプロジェクトとして運営していますので本研究会の役員全員で取り組んでいます。以下のメンバーを中心として、公開授業の開催2週間前に「キャラバン実行委員会」を開き打ち合わせを行っています。

氏名	勤務先 / 職名	研究分担
長尾 尚	大阪信愛女学院メディアセンタ・教諭	全体総括
飯田 英佳	四條畷学園高等学校・教諭	ウェブの企画・設計
津田 郁夫	大阪薫英女学院高校・教諭	研究企画・総括
市川 隆司	大阪信愛女学院メディアセンタ・教諭	研究企画・ウェブの企画
川崎 初治	飛翔館高等学校・教諭	研究企画・まとめ
小池 崇司	プール学院高校・教諭	研究企画・まとめ
小林 直行	清教学園中・高等学校 ICT コーディネーター	研究企画・評価・環境整備
坂東 永智	聖母被昇天学院中高等学校・教諭	研究企画
岡本 弘之	聖母被昇天学院中高等学校・教諭	記録・報告書作成
米田 謙三	羽衣学園高等学校・教諭	記録・報告書作成
谷田 部聡	大阪福島女子高校・教諭	ウェブの企画・設計
辻 陽一	帝塚山泉が丘中高等学校・教諭	研究企画・評価

5. これからのキャラバン

a. コミュニケーションの拡大

今までの18回のキャラバンには、現職教員だけでなく、若手の研究者である大学院生や企業関係者、情報の教科書を制作している出版社、そして大学の先生などの専門家まで延べ636名もの方に参加していただきました。今後は、更に輪を広げるために教職を目指している大学生に積極的に参加を呼びかけようと考えています。そのことで、現職から情報科教員に移った先生と最初から情報教員を目指している学生との間のコラボレーションが育てば、今までにない新しい連携が生み出される可能性があると思います。前回の大阪国際大和田高校で行われました高田先生のキャラバン(5/6 実施、内容：情報Aの年間指導計画を考える)には、関西大学総合情報学部の学生が8名も参加してくれました。意見交換会では「年間の指導計画にタイピング指導は入れるかどうか」について一人ずつコメントしてくれましたし、その後の懇親会でも教職という仕事について熱心に質問してくれました。きっとあの学生達にとっても、非常に有意義なキャラバンだったのではないかと思います。

b. サタデーキャラバン

これは、月に2回程度土曜日の午後に集まり、今までに実施したキャラバンの授業展開を側面から捉え、もう少し深く掘り下げ分析することでさらに内容あるものとして実践できるようにまとめようと考えています。少しやり始めたのは、プレゼンテーションの授業展開についての分析です。今までの公開授業で何度もプレゼンテーションの授業を見せていただきました。ICTプロジェクトの発足と共に「プレゼンテーション」の授業ではどのような課題設定をし、どのように展開していくことによって生徒達に表現力・発表能力をつけさせることができるか。それらを実践できる具体例を挙げまとめていければと考えています。

このように、今後も公開授業キャラバンは様々な工夫をこらしながら継続していくつもりですが、皆様方からのアイディア・ご要望などありましたら是非お聞かせください。

「高校生の安全意識国際比較調査と安全対策 新世紀型犯罪に巻き込まれないために」

International survey on students' personal safety awareness and risk management against new types of crime

2003年3月1日(土) 羽衣学園中・高等学校 米田 謙三

1 プロジェクトの目的・意義

日米の中学・高校の教室をインターネットを中核としたIT (Information Technology) で結び、参加生徒間の議論を通じて、身近な安全(パーソナル・セイフティー)に対して、日米の間で違いを学ぶ。議論を通じて学んだ日米間の違いを確認するため、相互に相手国を訪問し、フェイス・ツー・フェイスの交流を行う。「安全」という最も基本的な生活環境の違いは、当然、様々な分野における考え方の相違をもたらす。つまり、安全・危険は、その土台・土俵、あるいは、下部構造といえるもので、この違いが理解されていないければ、その上にどのような議論や交流を築いても、本当の理解は生まれないと考えられる。国や個人の安全が世界中で脅かされ、安全に対する聖域がなくなりつつある現状とこれに対する国家間や個人の間での姿勢の違いが誤解を生み、信頼を前提とした交流を行うことを困難にしている。本企画は以上の視点をもとに、ITという新しいツールを使いながら、新しい時代の交流のあり方を交流実践を通じて探る。

2 実施計画・予定

2002年4月 校内調整 教員:企画全体について、特に海外派遣について、各校の校内調整を行う

6月 企画の趣旨説明・BS利用時の注意事項説明 クラス・クラブ・個人のBS開始

教員:第一回BSをもとに、次の展開・進め方の検討を行う 実施したBSの内容について、注意事項の確認と内容の明確化
(ニューヨーク市教委、I*earn USA, 日米センターニューヨークオフィス訪問)

他校・他クラスのBSを見た上で、第二回目のBS実施

教員:第2回BSをもとに、次の展開・進め方の検討を行う 関心の高いトピックに関係する場所などを実施見学

BSの特徴やグループ分けを考えさせるグループ分けについての第三回BSを実施。

教員:どのようなグループにわけるか生徒に考えさせる。

(考えられたグループとは、(1) 性犯罪 (2) 食の安全性 (3) 環境汚染問題 (4) 国際紛争 (5) (学校・家庭・通学途上・近隣で経験する)身近な暴力(言葉の暴力・肉体的暴力を含む) (6) 国家 (7) 宗教 (8) メディアなど

教員:第3回BSをもとにサブトピックを決定 次の展開・進め方の検討

7月 (1) 各校参加生徒が集まり、反省・確認・今後の展開について討議 (2) 大阪府警察本部ハイテク犯罪対策室による講演

8月 サブトピックを選び、参加生徒各個人で調査・研究を行う。教員:生徒の調査研究の進め方について、質問に答えるなどして、個別指導を行う。評価:Student of the Monthを決定(6月~8月)

9月 研究発表大会を実施し そのあとグループ研究で理解を深める パワーポイントなどでまとめ

10月 国際共通BS・ボードを設置。トピック別に議論を深める(英語・日本語可)

教員:海外の書き込みとのやりとりの中で、気づいた点などについて講義する

11月 JEARN 関西セミナーで 教育関係者(ニューヨークからも含む)の前で調べた内容を発表

ニューヨーク事務所 ディレクターによる授業実施 安全についてのアンケートを日米で実施し、収集・分析し、グループ研究

12月 関心の高いトピックに関係する場所などを実施見学(大阪府堺市 みかん農園訪問など)

参加生徒のここまでの自己評価(活動を通じて学んだこと)

2003年1月 海外派遣について、現地での活動内容、引率者について 海外派遣生徒の決定

2月 日米 グループ分けを行い、今までの研究で深めた内容をもとに意見交換を行う

3月 日本から1名の生徒ハワイ教育省主催全州会議で発表。現地調査。ホームステイ。ハワイ生と交流

安全に対する自己認識レーダーチャートを作成する。

5月 各グループの研究内容をまとめて、ウェブ上に掲載。絵・写真・映像なども含む。

教員：グループ研究のまとめを英訳する補助をして、ウェブ上に掲載する際の助言

7月 JEARNの国際会議(7月20日～26日)参加。韓国からの参加も予定。7月15日～27日 研究内容の共有。意見交換。

12月 ニューヨークから10名の生徒、日本訪問。現地調査。ホームステイ。

2004年 3月 日本から7名の生徒、ニューヨーク訪問。現地調査。ホームステイ。ニューヨーク生徒と交流。

参加生徒の全体的な自己評価 教員：まとめ

3 VB とレーダーチャートの一部



プロジェクト担当者

(1) 日本側

辻 陽一(帝塚山学院泉ヶ丘高等学校) 飯田 英佳(四條学園園中高等学校) 小林 直行(清教学園中高等学校)

高田 健三(大阪国際大和田中高等学校) 小池 崇司(プール学院中高等学校) 川崎 初治(飛翔館中高等学校)

津田 郁夫(大阪薫英中高等学校) 村上 徹(精華高等学校) 米田 謙三(羽衣学園中・高等学校)

(2) アメリカ側

Dr. Edwin Gragert (i*earn USA) Kerry Koide (ハワイ教育省) Cindy Won (Aiea High School) ホノルル

Faith Fukuyama (Kaimuki High School) ホノルル Sheryl Weuker (Frederick Douglas Academy) NYC

Melanie S. Lee (Erasmus Hall Campus High School for Business & Technology) NYC

(3) 助言・研究者

(1) 田中 博之 大阪教育大学助教授 (2) 影戸 誠 日本福祉大学助教授

(3) 長尾 尚 大阪信愛女学院メディアセンター副所長 (4) 稲垣 忠 関西大学総合政策部大学院博士課程

助成金

国際交流基金日米センター (CGP) 420万円

松下視聴覚教育研究財団 60万円

ICT プロジェクトについて

石部 睦雄

大阪信愛女学院 学習センター センタ長

ICT プロジェクト（International Communication Project）は、研究課題を『高校生の情報化と国際化に対応できるコミュニケーション能力育成に関する実証研究』とし松下視聴覚教育研究財団の研究助成を受け大阪私学教育情報化研究会の新しい活動の一つとして始まります。

近年その重要性と必要性が叫ばれるプレゼンテーションですが、教育現場ではプレゼンテーションのためのプレゼンテーションの練習に焦点がおかれているようです。実社会でプレゼンテーションが効果を持つためには基礎となるコミュニケーション能力の開発が前提となることが学校教育では見落とされがちなようです。

このプロジェクトでは参加五校（羽衣学園、大阪国際大和田、プール学院、四條畷学園、精華）から三名ずつ、計15名の生徒を対象に、数回のセッションを行いプレゼンテーションの総合的な技能の向上を目指そうという企画です。

プレゼンの中でコミュニケーションが果たす役割を多角的にとらえ、それぞれのセッションを通して段階的に「考える、まとめる、話す、見せる、伝える」などの技術を、レクチャーとワークショップで練習していきます。

それぞれの学校の生徒、担当者を中心にゲストのレクチャーも交えて、楽しいテーマと内容でプレゼンテーションの新しい形を模索し、新しい時代に対応できる力の養成を図ろうと考えています。

平成14年度・コンピュータ活用教育・教員支援研修会の報告

報告者：大阪信愛女学院メディアセンタ
長尾 尚

【名称】コンピュータ活用教育・教員支援研修会

【主催】大阪府私学教育情報化研究会

【共催】大阪信愛女学院短期大学，大阪国際大学，大阪国際大和田中・高等学校

【後援】大阪府私立中学校高等学校連合会，大阪府私立小学校連合会，大阪府

夏期：平成14年8月7～9，12～14日・8月21～23，26～28日

場所：大阪信愛女学院短期大学 新・鶴見キャンパス 情報メディア教室

冬期：平成14年12月14・15日(土・日)21・22日(土・日)25・26日(水・木)

場所：大阪国際大学 守口キャンパス <5号館301,311号室>

時間：午前9時～午後4時まで(毎日6時間の学習時間)

参加者：夏期34名(参加校数：30校) 冬期68名(参加校数：40校)計102名

【特徴】「コンピュータをいかに授業に活かせるか，実地で学べるプログラム」

1. コンピュータやインターネットを道具として活用することを目指す
2. 実地を主とした36時間の充実したカリキュラム
3. あらゆる教科・学年に対応できる柔軟な内容構成
4. 教室に戻った日から活用できる教員主導型の研修内容

* コンピュータの操作技術習得を目的とした研修ではない

【カリキュラム概要】

1. 単元プランの作成
2. インターネット検索とWeb：サイト及び引用リストの作成
3. インターネットと電子百科事典を使った情報収集
4. 児童・生徒が制作するプレゼンテーションの作成
5. 児童・生徒が制作する発行物の作成
6. 単元教材1の作成
7. 児童・生徒が制作するWebページの作成
8. 電子メールを使ったコミュニケーション
9. 単元教材2の作成
10. 単元プランの完成
11. 単元プランの評価

夏・冬いづれの研修会も私学の小学校、中学校、高等学校を中心とする現職教員が参加した。1日6時間で6日間という長期間の研修会ではあったが、欠席する先生もほとんどなく、みなさん非常に熱心に取り組まれていた。この研修会は、インテル社がいわゆる社会貢献事業として始めたものである。日本では、2001年から公立学校の教員を対象に実施された。私立学校の場合は、教育委員会にあたる受け入れ窓口がないという理由で、この研修会には参加できずにいた。しかし私立教員からの参加要望が多数寄せられたため、大阪府私学教育情報化研究会が取りまとめ窓口となることで、今回、全国で始めて私学教員のための研修会が実現した。

インテル社は、半導体メーカーであるが、当然マイクロソフト社との関係も深いためビジネスソフトであるオフィスや電子百科事典であるエンカルタといったソフトが、無償で受講生全員に配布された。教育関係者対象の研修会ならでは特別な措置だと言えよう。さらに研修時には、1人1台のパソコン環境でインターネットといったネットワークを活用できる施設を主催者側が準備提供したために参加者からは、トータルとして素晴らしい学習環境だったと好評であった。また講師には、インテル社公認のインストラクターが派遣された。どの講師も若くて教育に関心を持っているものが揃っていたためか、参加の先生方も彼らの情熱に触発される面が多かった。終了後のアンケートを見ると、研修内容そのものから得た授業方法に対する技術や知識に対する評価もかなり高かったが、参加した先生間での新しいヒューマン・ネットワークを築けたことを評価している教員も多かった。参加者間の連携が高まった背景には、研修会の形式が、講義中心ではなく参加教員が随時グループ討議を行いながら進めたことにある。そのことで先生間のコミュニケーションが急速に促進された。各校により教育情報化に対応する状況は千差万別だが、共通に抱える悩みや課題について話し合える場と機会ができたためにこの講習に一層深い意義を感じられたようである。講師からも私学教員の情報化に関する意識が極めて高く、講習中の姿勢も全員が積極的に取り組んでいたとお褒めの言葉を頂くことができた。

以下、参加教員の感想をまとめたものである。

【研修会に参加した感想】

パワーポイントの利用の仕方が、かなりのみこめました。

教科「情報」に関する Web ページの資料がたくさんあることを知りました。

今回使用した様々なツールの使い方に広がりを持てるようになりました。

教材を作成するにあたっての考え方や作成のポイントが呑みこめました。

教材間でのリンクのはり方や著作権についての説明がとても印象的でした。

技術的に得るものは思ったほどなかったが、他の先生と接してみてよい刺激を受けました。

パワーポイント・ハイパーリンクの使い方がとても参考になりました。

プレゼンテーションに使える実践的な体験ができ、すぐに役立つ授業作りへの垣根が低くなった。

スキルアップに役立ちました。とにかく実際に教材を作れたのが一番よかったです。

アプリケーションソフトの使い方に加えて、他校の先生方の意見を聞いて参考になった。

教科「情報」の一連の授業の運び方のみならず、自分の授業を見直すよい機会となりました。

授業で役に立ちそうな関連サイトをたくさん知ることができ、著作権について考えることができた。

単元プランを完成していくということで、すぐにでも授業準備に活用できる内容だった。実用的な知識が増えたのでうれしい。

「情報」の設備（コンピュータ）を利用した授業の展開法や、関連するソフトの使い方について、私にとってはほとんど知らないことばかりだということがよくわかった。

学校に戻って、他の先生と一緒に手づくりの講習会を開いてみたいとなりました。

今回の研修会は、従来のものと2つの点で大きく違っていた。

- 1) 企業のバックアップがあったために配布教材や講師、学習環境が特に充実していた。
- 2) 研修会の進め方が一方通行ではなく、参加者が中心となって積極的に活動、実践していくタイプの研修であったために参加者の達成感が非常に高かった。

今後もこのような新しいタイプの研修会が必要である。社会の高度情報通信化が進展する中で、教育に携わるものが、主体的にかかわれる研修会が今後も継続的に開催されることが期待されている。

平成14年度 第35回 近畿地区私学教育研修会 教育情報科部会 報告

実施 近畿私立中学高等学校連合会 担当 大阪府私学教育情報科研究会

研究目標

グローバルマインドを育てる情報教育のゆくえ

～教科「情報」と「総合的な学習」の授業イメージを模索して～

日時 平成14年10月19日(土) 10:30～16:30

会場 プール学院中学校・高等学校

今年度の近畿地区私学教育研修会を、大阪府では本研究会が担当することとなり、教科「情報」と「総合的な学習」の授業イメージを模索することをテーマに、プール学院中学校・高等学校において実施した。

平成15年度から本格的にスタートする高等学校課程における「情報科」および「総合的な学習の時間」に対する授業イメージや評価の問題、他教科との連携など、不安や課題を抱えている学校も多いのではないかと考え、この現状をふまえ、本研究会の日頃の研究からの提案や、共に学べる機会をもてないだろうか、と内容を検討した。

基調講演は、『「情報教育と総合的な学習」をいかに連携させるか?』というテーマで、大阪教育大学助教授 田中博之先生にお願いすることとした。

そのあと「総合的な学習」と「情報科」と、2つの分科会を企画した。私立学校のなかには、早期より「情報教育」に取り組んでいる学校もあり、また「総合的な学習」的な授業を実践している学校も存在する。本研究会では平成13年9月より取り組んでいる『「情報」関連の授業公開キャラバン』の実績がある。そこで分科会では公開授業を1つずつ実施することとした。参加した先生方に受講していただくとの意見もあったが、実際の生徒対象の授業を見てもらうほうがよいとの結論に達した。ただし、会場校のプール学院がテスト直前だったため、受講する生徒は複数の高校より学年をまたがる生徒をお借りするというユニークな形となった。また、分科会ごとに本研究会の実践による研究発表を行い、ワークショップを開き、来ていただいた先生方に実際の経験をしていただく、という計画をたてた。

さて、当日は雨にもかかわらず近畿地区の私学・公立学校の教員、大学院学生など約150人の参加を得た。

午前の基調講演においては、田中博之先生の豊富な実践経験のなかから、「情報科」「総合的な学習の時間」、また「外国語」など教科の枠を超え、生徒たちが生き生きと活動しながらコンピュータリテラシーを身につけ、またグローバルマインドを育てることのできる具体的な事例を紹介していただき、そのための理論をうかがうことができた。

午後は「総合的な学習について」をテーマとする分科会A、『教科「情報」について』をテーマとする分科会Bに分かれての公開授業とワークショップであった。

分科会Aの公開授業は、大阪国際滝井高等学校教諭・藤本雅巳氏による「メディアリテラシー」である。同高校においては、2・3年次に選択で履修する「特色講座」において実践されている授業のひとつであるが、今回は羽衣学園高校の生徒を招いて行った。事前に一度、羽衣学園で授業をしてからの2時間目である。

その後、帝塚山学院泉ヶ丘中学校・高等学校教諭・辻陽一氏による本研究会の主催している「安全プロジェクト」の実践報告があり、辻陽一氏と羽衣学園高等学校教諭・米田謙三氏、清教学園中学校・高等学校 ICTコーディネーター・小林直行氏を加えての、同プロジェクトに参加の先生方に実際体験していただくワークショップをした。

分科会Bでは、まず四條畷学園高校教諭・飯田英佳氏により、本研究会で継続して実践している『「情報」関連の授業公開キャラバン』に関する研究発表を行った。その後プール学院教諭・小池崇司による『先取り！

教科「情報」の公開授業を行った。実際にプール学院高校で実施した授業を1時間分、大阪国際大和田高校、羽衣学園高校、飛翔館高校、帝塚山学院泉ヶ丘高校から初対面の生徒を招いての授業をした。

こちらのワークショップは、大阪薫英女学院高校教諭・津田郁男氏、飯田英佳氏、小池崇司により『教科「情報」のための実践』と題したものである。フリーソフトを利用した実際の授業の展開例や、授業実践において直面する課題を共に考えるという内容であった。

基調講演、2つの分科会共に熱気あふれたものとなり、予定時刻をオーバーしても終了しないほどの盛り上がりであった。

公開授業 「私のメディア史」 藤本雅巳（大阪国際滝井高等学校）

この公開授業の特徴は、授業者が「教える」という項目が特になくということであるといえる。では、授業者はどのようなことを授業中に担うのであろうか。それは、学習者が自らの成長の中で、「メディアとどのように付き合ってきたか」という記憶を上手く引き出すことにある。すなわち、授業者のファシリテータ的活動が大切となってくる。そのため、授業の最初で次のような手法を取り入れてみた。まず、「メディア史の記入シート」を周囲の者と話しをせずに入力していく、記憶というものは、結構曖昧で未整理な状態にあるため、それらを思い出して整理していくことは、なかなか骨の折れる作業である。そのため、数分でほとんどの授業者が行き詰まってしまう、心の中に新しい情報を欲する気持ちが湧き上がってくる。そこで、周囲の者との情報交換を許可すると、それぞれの学習者どうしが積極的に情報交換を始める。この時間がこの授業での大切なポイントである。前にも書いたように記憶というものは、結構曖昧で未整理な状態であるため、「覚えているが、忘れていたもの」が多くある。学習者がお互いの情報を交換することで、「忘れていた」記憶をお互いに引き出すことができる。この活動が、学習者どうしの記憶の活性化や共通の記憶による共感などを引き出し、より大きなふくらみを持った発想に繋がることが期待される。では、これら一連の学習者の活動の中で、授業者の活動はどのようなものであろうか。まず、学習者の発想に対して否定的な発言は行わないことが大切である。それよりも「それ、おもしろいね」とか「うまく表現しているね」といったような肯定的な発言がよく、その後、「なぜ、そのような表現になったの」とか「どんなメディアだった」といったように情報として不足していることを考えさせるようなアドバイスをする必要がある。以上のような活動が一段落ついたら、情報を整理させる。ここで、多くの学習者が、「幼児期・小学校低学年」の情報が他の時期に比べて少ないことに改めて気づく。そのため、それを補うために家族へのインタビューを提案し、次回までの活動とする。

最後に、今回の公開授業では、授業者の勤務校の生徒ではなく、羽衣学園の生徒が学習者として協力していただけた。授業者としては授業の目標は十分に達成できたと思っている。このように授業がスムーズに展開できた最大の理由は、学習者であった羽衣学園の生徒のポテンシャルが高かったことにあると思われる。彼女らに心より敬意をはらいたい。

公開授業 「印税を計算しよう」 小池崇司（プール学院高等学校）

著作権の問題とエクセルの操作を生徒に身近なところから学ぶ授業である。

私は授業の最初に、その週の「最新 IT 情報」を紹介することにしているのだが、本時の導入には、2002年度9月の中間決算で、大手レコード会社エイベックスが赤字になったという情報を紹介する。低迷の原因は「違法コピー」にあるようだ。生徒たちはMDやCD-Rなどで軽い気持ちで借りたCDを複製しているのではないだろうか。

まず、身近なアーティストのCDはどのくらい売れ、その製作に関わった人たちにどのくらいの利益がもたらされているのか、調べてみよう。

CD 売上ランキングのサイトを探し、「中島美嘉」のアルバムが累計で何枚売れているのかをしてみる。

次に、アルバムの内容を見て中島自身が作詞や作曲した楽曲があるか調べ、作詞、作曲に対する印税を計算してみる。

ここで、Web ページや日本文教出版社編「IT Literacy 著作権編」を参考に、エクセルを使ってステップを踏みながら印税を計算する。

これがこのアルバムのなかで、自ら作詞や作曲をした曲に対する印税である。もちろん作詞家、作曲家、アレンジャーなどたくさんの人にそれぞれの計算式による印税が支払われる。また、歌手には一定の率で歌唱料が支払われる。著名な歌手には契約料なども支払われる。

ここで、気付いたことを VB や掲示板に書き込むことによって回収する。

このような授業を行ったのだが、授業の開始直後、トラブルにより教師機が動かなくなるというハプニングがあった。教師からの画面の提示が不可能となり、黒板と言葉に頼ることとなった。ほぼ初対面の私の言うことを、一生懸命理解しようと努めてくれる生徒たちに本当に助けられた。

インディーズレーベルの中から、メジャーなアーティストが現れることが、珍しくない時代になった。自分の作品を CD にし、きれいなライナーノーツを入れることも、簡単にできる。身近なところで歌っている人たちを CD を買ってあげることによって支え、やがて広く認められるのを自分のことのように喜ぶ人たちも多々いる。

違法コピーの横行によって、一時的には好きな音楽を手軽に手に入れることができると思っていたとしても、その一人ひとりの行為がどんな結果に結びついていくのか、自分のこととしての気づきがあれば、と考えて実践した授業であった。



冊子発行にあたり、ご協力いただきました先生方には感謝いたします。

編集にあたり不備等がありましたら、深くお詫び申し上げます。

発行：大阪府私学教育情報化研究会